平新報

毎月10日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
磐城市岩出字向二八
發行所 平新報社
一部定價拾円送料四円

眞立随筆

再刊満五年の記念日に当り
破邪顯正勧善懲悪
啓発運動の念願

勧善懲悪　岩出
[illegible]祈禱神聖
念願成就
平新報社 山野邊眞立殿

囫小名小時代の恩師篠山先生から『好んで敵を求めず』云々のあたたかい苦言に接したが眞立は社会公益のため売られた喧嘩は敢然として應ずる、彼等邪道共は眞立に否な社会に暴力・権力金力を以て、言葉で行動で戦ひを挑んだ、それが事實か、現實が厳かにものいうて居る。眞立は筆硯で、法の許す範囲で言論の自由に立脚して應戦しつつあるのであるが、佛（ホトケ）の顔も三度とか、そう佛様になつて居られぬ、眞立は生きて居るのである。馬鹿とのゝしるものはのゝしれ、但し狂人等と吐いたら名誉毀損で手續きする。

囫敬老会なるものが年間の行事として展開された、實に結構な事である、然し果して家庭的に社会的に敬老して居るか、最近の世相は弱者に同情するに在らず、強者に味方する、精神的戦國時代相である、筆者眞立が常に力説する自治体の長議員、公職に在るものは大衆から尊敬さるべき人格者であらねばならぬ、近い例で磐城市で長のつく役付きの所謂有名人で尊敬さる人何人かある、過般住吉で有名人何とかの興業をやつたが、〇長初め出演したそうだが實に面（ツラ）の皮のあついには觀覧者はあきれて居つた相だ、〇と腰から下には人格なしと極論すればそれまでだが、こういう集りのグループが市政を司（つかさど）る？婦人、青年殊にPTAとか教育、社会風教指導的立場に在る、彼らは票を集めれば良い……そのものより何者もない、社会公益等心中にない第三小（住吉）校入口には野田の大和田翁が寄贈した、二宮尊徳の石像の如く尊敬さる、長のつく有名人が一人でも居つたか、居つたら手をあげて下さい、要は長のつく輩ら一般市民から尊敬さるべき言動をなして欲しいというのである。但し附記しておくが、今の選挙法は数の戦いで質でない、社会は氣持ちの結合で玉石こんこうというが、悪の方が多い、蟻は甘（アマ）きに集る『天下に何者を知り得るも自己のみは知り得ず』とスペンサーは申した、長のつくもの自己反省を切望する！これが破邪顯正であり、啓發運動である、……が眞立の目下の心境は如上の筆致では手ぬるい、勧善懲悪！即ち善い事はすゝめ、ほめ、悪い事はこらすのだ　これを道徳上からではこれ又手ぬるい、法治下の國民として権利を主張し現法上断々呼として邪悪と精神的に闘う信念は年頭に念願せる通り邪道を破り正道を正々堂々進まん同志は正義の歌を高唱せよ、『敵は幾万ありとても』

常炭木山さんとの會談後日の印象

常磐炭礦KK礦業所、總務部長木山茂彦氏から事を三度もむけられて会談を申し込まれたが當時は『當分会談申し込みに應じられぬ』と當時本紙に眞立の意志を表示して居つたが、最近是非会はねばならぬ要件が、突發し、眞立が進んで木山さんに会談を申し込み氏は前の失禮を水に流して会つて呉れた理である、この意味で木山氏の狭量ならざるを知つた、……で本紙前號に初印象を報じた理である

磐城の首長選
訴訟は終止符を打つた？

昨年七月に行はれた、磐城市長選で當選無効の訴訟を仙台高裁に出して居つた、磐城市定西一四七の齋藤司氏は去月三日取下げたと、各新聞は報じた、筆者は縣選擧管理から却下された當時、横綱と横綱とが四ッに土表で組んで勝敗は決つた觀念したらよかろうと、批判したが、〇〇氏らの諒解もなくして齋藤氏は取下げて了つたとか、此處に筆者等の常識では割り切れぬ事がある、兎に角此の事件は終止符を打つた事になる？

志賀要平氏四度
首長選出馬のカマイ

志賀要平氏曰く『信ずるものは已れのみ』と この人は目下絲屋として、醤油醸造業と、小名濱信用金庫の理事長で全金庫の方は事務を近藤安雄氏に任してタマに顔を出すらしいが、目下の趣味は若いのに似あはず、盆栽!!志賀さんのうちは、小名濱、米野（こめの）飴屋（あめや）が判り易い、氏は多くを語らぬが四度、首長選に出る事は疑ひなしと筆者は判斷する。彼は勝敗は眼中になくあらゆるものを絶排して、その待機のカマイをして居る、清潔なる點で關内正一氏と相通ずる點があり、然し、志賀氏は若い、健康である、支持者も信念の強いというよりは郷土を明るくするという犠牲的精神の燃える人であり、銃後の人の氣持ちが戰前に戻りつゝある、公の財政は赤字にして自己のフトコロは黒字にするが如き爲政家共を大衆は許さぬ、時代となりつゝある過般の首長選で如實に物語つて居る

彈劾裁判々決
第二號

寺迫判事に罷免判決、彈劾裁判、威信を失墜した非行

これは事件當事者から酒食の饗應を受けたとして裁判官彈劾裁判所の判決である去月三十日舊赤坂離宮内法廷の事件である、判決要旨

裁判官たるものは、（以下畧記）

磐陽評論

大和田與兵衛氏經営

報導人というよりは新聞經營人としての先輩、大和田印刷所の社長大和田與兵衛氏は昔『磐城之實業』改題して磐陽評論を復刊して第三號（第八四七號）九月二十八日附配布された、『水石山ゴルフ場を分解する、觀光登山者は何とも思わぬか』の批判は相當の反響があるらしく馬除けの鐵條柵は早速取り除いたとの噂サである、マサに大和田先輩は取材に批判に目のつけどころが偉い『特ダネ記事、地方大問題は鋭く解剖する』という看板に偽りがない、益々大衆の味方として嚴正批判を期待するや切なるものである。

故鈴木辰三郎氏銅像建設の可否で
「馬鹿野郎」呼ばはりまで發展

毎日新聞拾月二日附福島毎日磐梯山に『また平市の二十八日の市会協議会で』故鈴木辰三郎前市長の銅像建設問題が議されたが建設派は『平競輪二億円の生みの親だ、建設費百八十万円のうち百五十万円ぐらい市が出すべきだ』と故鈴木市長の功績をたゝいたが反鈴木派の反輪百出し、花澤、四家兩議員の間で馬鹿野郎呼ばわりまで發展し議題は次回越しとなつた。

平市諸橋家と中田家の慶事

平市六丁目諸橋久四郎氏長男文士郎氏は平市二町目西村屋鈴木新右衛門氏夫妻の媒妁で磐城市助役中田佑一郎氏長女昌子さんと婚約成り十一月三日の吉日に結婚の式を擧ぐ新郎は東洋綿花KK勤務。

鯨岡家の芽出度

常磐市湯本鯨岡啓氏男弘氏長男一乘（かつのり）さんは八月三十一日誕生した。

小説『幹事長と女秘書』どうなる

小説『幹事長と女秘書』のモデル問題で元自民党幹事長の佐藤榮作代議士（岸首相の實弟）から告訴された、作家宮本幹也（四二）本名宮本正勝氏と雑誌面白倶楽部元編輯長丸尾文六（四七）氏、兩氏にたいする名誉毀損事件の求刑公判は五月三十一日午前拾時すぎから東京地裁浦部裁判長係りで開かれ池浦検事から兩氏に禁固八ヶ月を求刑した、引いて過般金四万円言ひ渡されてあとはどうなつたか。

磐高拾回學友懇親會

磐高第拾回卒業生（明治四十三年三月）の同級会を十三日平市新川町正月莊で懇親会を開く、右同期生には織内孝平、大河原憲太郎、佐藤鉾一、鈴木龜之助、千葉右近、島海菊五郎、根本一馬、三森虎雄、根本源蔣、馬目武之助氏の郷土在住の級友多士濟々である。

知人消息

佐藤三平翁、（内郷市小島）數ヶ月前から罹病自宅で靜養中

吉田三郎氏（内郷市小島）は平事件の首謀者鈴木磐夫氏に市会控室で腰かけでなぐられ此の程傷害で告訴した、兩氏とも内郷市会議員但し吉田氏は鈴木氏と話し合いで四日告訴を取り下ぐ

◎駒木根忠三氏（玉川農業協同組合長）小名濱、水素病院に入院加療中。

阿久津五郎氏（舊姓佐川）湯本の氏過般バイクで怪我をし小名濱和田醫院で入院加療中だつた、全院退院目下湯本裏町渡邊醫院で加療中

住吉神社秋祭り
十三日（日曜閏八月二十日）

住吉鎮座（渡邊繁氏宮司）延喜式内住吉神社の祭禮はこの十三日行われる、恒例により流鏑馬（やぶさめ）同祭りも昔のシキタリをやめぬが、時勢の進行に連れ、本年は自動車で小名濱海水くみ、即ちオコリに行く、（前日祭十二日）勅使は竹原太一氏長男平六ちやん（四）才故太津彌氏の孫、馬上には（馬は從來二頭）とも牡（おす）に限つて居つた、本年は住吉の青年では足りず氏子たる岩出、相子島の青年迄も供奉する事になつた造船の神としての秋祭りは赤物店の賑ひ、農、漁業者參詣多い事であろう殊に本年舊二月十三日、みのかさ祭りの際野崎滿緑氏らの寄金によつて新裝成り遷宮祭を執行したばかりである。斷つておくが御本殿改築には原型は絶對に變損して居らぬ由である。

寫眞は新裝成つた住吉神社

都市計劃上に於ける平市と磐城市の關係に就いて
小名濱横町三　柳内準平　【2】

これに反して小名濱は恰も尺取虫の如く一進一退の有樣である。

今磐城市の金融財政に大きな影響を有する、昨年度の魚市場の水揚高を見ると一ヶ年二十億円にして、これを一ヶ月に換算すれば誠に僅少であります、平市に就いては、常磐炭礦のみならず平市を中心として其の周邊は農村に包まれて居り、平窪白土の野菜處を控え澤村勘兵衛氏の開拓したる、小川江筋は見渡す限りの水田である、平市はまさに生産地を控えて居ると同時に消費地をも控えた好條件に恵まれて居るのであります然るに小名濱は其の都心部を中心に円を畫けば其の半分は海である。農村地は僅かに湯本及鹿島泉の兩方面に過ぎず海中には勿論人は住み得ない從つて小名濱の發展すべき道は將に明白なる事である、即ち海（太平洋）に依る以外發展の道は無い。

常磐市は昔は福島市に於ける、飯坂温泉の如く若松市に於ける、東山温泉、郡山市に於ける、熱海高玉温泉の如く、平市に對する、湯本は温泉街として繁榮を保つべきであつたが炭礦の影響を受け炭礦の發展と逆比例して温泉は出なくなり、旅館は寂れ商店街は平市の發展と文化の向上に押えられ町の發展は望まれず、加ふるに温泉の枯渇と共に旅館の御株も平市の設備と發展に奪われる樣な始末となり安閑として居れぬ、狀態に立ち至り例の内郷よりの温泉誘致問題等は明らかに之を立證する處である。人口二十五万を目標の大都市計劃の中にある、小名濱の今後の着目すべき重點は港灣の擴張完成による、出入船の多きを期し魚獲高を多くして之れと關連して冷凍加工、工業設備等の増設擴張は申すに及ばず、平小名濱の單鐵道の完成と平、小間の彈丸道路の完成は東北總合開發の只見川の電力誘致鮫川の工業用水の充實低品位石炭による火力發電の増大と相俟つて諸工業の小名濱誘導建設に對しては超黨派團結一致して之れが目的達成に努力すべき急務なる事を磐城市の發展隆昌と文化の向上の爲に申し述べる次第であります。

◎因みに筆者は磐中第十回卒、仙台高工出身

藤原川の洪水
水田一反歩流失
水稲倒伏多く豊作變じて減作

六日朝からの降雨で地方では平市番匠町四十戸床下侵水、藤原川の堤防が延長四十メートルにわたりえぐりとられ水田一反歩が流失、瀧尻では顯水が逆流して堤防が長サ約三百米にわたり決壊、このため付近の水田約十五町歩が冠水したかくの如くで水稲の倒伏は推して知るべきで當地方は豊作變じて凶作ではないかと心配して居るが官僚役人どもはとらぬ皮算用これを机上の空論というのである。

音信交換

福島縣磐城警察署　内山平

拜啓　酷暑の砌り益々御清榮の段お喜び申上げます。さて私こと住吉駐在所在任中は公私共一方ならぬ御世話樣に相成り三年有餘の歳月を無事大過なく勤めさせて頂きました事は偏に皆樣方の御懇援の賜深く感謝致して居る次第で御座います今回本署轉勤に際しましては格段の御芳情忝うし御高志の程有難く厚く御禮申上げます。時局なお複雑多難の折淺學菲才の身を顧みず今後共ただ民生の安定治安の維持に微力を捧げ盡す所存で御座いますが更に一層の御鞭撻御教導の程心から御願い申上げる次第で御座います。皆樣の御健勝と御多幸を御祈り致し重ねて倍舊の御厚誼の程御願い申上げます。

昭和三十二年八月

一億千萬圓損害金支拂請求
駒忠事件愈々公開裁判
十一月十三日！平大法廷!!!
原告側に有利な判例出づ
代理人大嶺庫辯護士の
必勝の信念に期待する

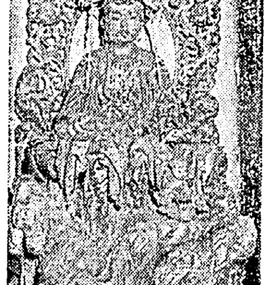
駒忠事件民事はその後どうなつて居るか、九月十七日準備公判の最終が行われた……が十月を通り越して十一月十三日(水)愈々合議の公開公判となつた、十七日準備裁判には、原告側から駒木根忠敬氏、代理辯護士大嶺氏、同法博鈴木義男氏被告側からは中田助役、總務委員長小林重三氏　代理眞木辯護士、の磐城市長潮議長代理市井辯護士（議長欠席）草野惠正氏及び代理辯護士畠山國重氏（故靈賢氏の甥）常磐炭礦側から市井辯護士等出席し行われた由である

◈刑事々件は相變らず取調中とある。

最高裁の判例

土地を借りて建物を建築し魚屋を始めることにきまつたところ土地の貸主がこの約束を無視して第三者に右の土地を貸した爲鮮魚商を營むことができなくなつた場合に、魚屋は營業を開始すれば利益が上つたということについて損害の請求をしたところ、それは正當な理由があるとして、魚屋の勝利になつた、最高裁判所の判例が昭和三十二年一月二十二日に出されたこの判例は從來と異なつた判決で駒忠事件については原告側に最も有利な判例だという。

正親町天皇勅額
『海會』記錄物言う林城禪長寺（二）



（寫眞は御本尊瀧見觀音）

・・・林城禪長寺・・・（佐竹俊雄氏住職）紀錄より維時文化十癸酉之三月十三日。

陸奥國妙心門派寫普門山記綱條　奥　州

一、宮城郡松島瑞巖寺、蟠桃塔頭二拾二箇寺、末寺五拾箇寺、塔頭、末寺略記。

一、仙台端鳳寺、蟠桃塔頭七ヶ寺末寺、壹ヶ寺(略記)

一、岩城岩前郡林城邑禪長寺、瑞松末寺、拾六ヶ寺、扣壹ヶ寺、但奥陸常陸兩國末寺。

楢葉郡小久邑賓林寺、〃郡下楢荒邑東松院、〃末繁東光寺、〃北神谷　天福寺、菊田郡瀬戸邑、龍春寺、〃上遠野深山田、妙光寺、〃西郷　西方寺、岩前郡中鑿原邑　建德寺、〃白鳥龍勝寺、〃本谷　地藏院、〃金成　大慈寺、〃野田　禪福寺、〃岩出　觀音院、〃御代　廣濟寺、〃平北目町普門寺、常陸多珂郡山屋邑禪源寺。

一、磐前郡磐城平大舘長興寺海龍、末寺十三箇寺同郡御廐邑　性譽院、〃住吉邑　西福寺、〃上高久般若寺、〃上山口　西光寺〃下高久　月光寺、楢葉郡田之網邑　波立寺、〃久之濱　龍光寺、〃四ツ波　忠敎寺。磐前郡平曲松　靈山寺、〃平七軒町　了宗院、〃平大館　瀧泉寺、〃北方邑　少林寺。

・・・岩出山觀音院、奥州岩前郡岩出村　觀音院、看主淨圓御觴春之趣奉畏候、御末寺ニ相違無御座候ニ付印形仕候、明和元年創立、開山雲岸禪師。

◎天保五年午六月御登常、禪源寺様（常陸山小屋?、南部八戸禪源寺雲祥か判然せず）へ岩出村名主山野邊儀右衛門(眞立四代前の祖)奉届文は寫版ならず次號なお庄吉(眞立祖父)德次（眞立の父）前者は安政四巳年三月、後者は明治九年四月磐前縣令村上光雄殿に廢寺晉上等同上。

◎現存する岩出子安觀世音堂は寶曆拾年七月吉日大工岩松氏が祖眞永爲の建立せるもの銘記してある、現に角、住吉神社は本紙に既報の通りであるが、禪長寺は觀音堂は二重の屋根で床板がなく土間になつており特異な建築様式で（御本尊瀧見觀音）も推して知るべきである……がこの大佛殿改築せんとするに際し最近用材伐材物を住職從軍中時の〇〇總代が〇〇〇〇〇せる事實がある。引い同寺の・・・小作米の〇〇〇〇等も默認し得ぬ事實である。

・・・岩出觀音院は明治六年一月十四日廢寺となり禪長寺に合併されたが岩出山は禪長寺の隱居寺として、岩出山で雲岸禪師が水ごりをとりつつ毛筆にて大般若經をかいたと傳えられて居る。・・・松等を伐材して居る、て何百年何千年も經た杉、代に供木とか、献木と稱し要はこの由緒ある禪長寺境・・・問題はこの營造物の保存である、雨がもりかけて居る、(下馬)即ち殿様でも寺前を通る折は馬から乘り物から降りるの標札も現存して居る、農地改革の犠牲！だが、觀光協会や、時の〇〇總代が協力どころか荒廢に導引した責任の追求批判は次號。

【反響】音信交換

平市城山　篠山　榮

眞立山野邊庄吉君、

君が破邪顯正の筆劍をひつ下げて石城論壇に立つて玆に三十三歳を數えることになつた事は實に慶賀に堪えない、然し其の間幾多の毀誉褒貶に遭遇された事であろうが、聊も素志を曲ぐる事なく一貫顯正の爲め捧げられた努力と功績は大きいしかし已に青年期をすごし中年期を迎えいよ／＼円熟期に入つた事に思をいたし好んで敵を求めず世の木鐸としての眞使命に立れん事を祈るもの。ある茲に五十年前の師弟の仮初の緣を結んだ事を回顧し敢て苦言を呈して益々筆硯清烈を祈るものである。

九月廿八日

×　×　×

常磐市湯本三函一五〇

鯨　岡　潔

小名濱局區內野田

玉川農業協同組合

組合長代理　山野邊庄吉様

尚貴駒木根組合長殿の一日も早く、御全快のことお祈り申します。三年續きの豊作の折貴下の一層御自愛を祈り、貴組合員のため御健斗の程希願いたします。

敬白

昭和三十二年九月十日

午前九時

木山さん常炭重役となる

常磐炭礦(大越新氏社長)では去月二十七日東京本社で株主總会を開き次の四新役員を選任した、これで同KKの重役は取締役十三名、監査役二名の計十五名となつた、從前の重役再選組略記、新重役左記。

◈取締役　木山茂彦氏（磐城礦業所總務部長）、工藤敏郎氏(本社經理部次長)、寺田啓氏（磐城礦業所保安部長）、監査役、千葉久三郞氏（磐城礦業所經理部次長）

常磐溫泉擴大促進会
創立初の役員
企画委員長　鯨岡潔氏

常磐炭礦と湯本區との契約五十立方米以外の殊湯的五百立方を運營する会が全市擧げて配湯の目的により出來た創立初の役員左の通りである、それが企劃たるや地方人から期待されて居る

会長　庄司滿吉、副会長　松崎彌一郎、御代當彌、總務正委員長　鯨岡正次、副　本田強、委員　近藤一利、大平芳太郎、畑爲七、大谷清、橋本利一、大井川榮重、大越正男、吉田直文經濟正委員長　白土正義、副　柳田輝雄、委員　藤田兵治、鈴木清長、武藤政雄楢林平、比佐芳、阿部正一吉田昇、櫻井知、企畫正委員長　鯨岡潔、副　仲井幸吉、委員　大内一美井上弥三郎、高子與三郎、溯羽きわ、渡邊波治、比佐義氏、野木貫一、若松茂、顧問、(順序不同)

前市長(協和建設社長)矢吹雅司、元町長(渡邊組社長)渡邊長作、元町長（湯本信用組合理事長）松本久吉、前磐崎村々長大田原德太郎法律事務所(辯護士)若松一美。現市長磯野清治、市会議長越田和文雄、區会議長若松佐久馬。商工会議所会頭吉田恭平。消防團長白石初太郎。專門店会理事長日野利恭。婦人会々長深澤みつ。常磐炭礦重役（總務部長）木山茂彦。品川白煉瓦(工場長)秋竹守一。

常任顧問（常磐商工協同組合理事長）比佐賢司。

★鯨岡潔氏の執筆の『新報直言』、其他は次號に必揭失敬。

・・・アルバムより・・・

寫眞は小名濱小校、明治四十二年組クラス懇親会、時の思師篠山廉先生を招待し遙かに大平洋を眺めながら

懐舊談に花を咲かした　よせては返す白波、此處は昔小名濱代官所の舊跡?

時、昭和三十二年九月十日午后二時

所、小名濱、福田屋旅館何の間か、松本德次郎翁の聲もあつた?。

人、前列渡邊順氏、（平市舊城跡）長女のまり子さんは駒木根忠敬氏實弟に嫁して孫が二三人ある。〇馬目いつさん、南富岡で百姓亡き夫は忠三翁の實弟舊姓柳内、長男は鈴木醫院長、御本人は小名濱幼稚園先生(七十八才)石城教育界の元老、大御所、この師の教へをうけた、世話になつた人は、平、小名濱、本宮等數万人であろう。〇田中穣氏、下神白農で、カスやで太つた事もあつた筈、共濟組合の役つきの答。〇一松の榮如さん?三ヌヂは大したもの、こゝには寫つて居らぬが、後から鈴本の鈴丸さんという十代の和式舞踊の達者がやつてきた、平華街の〇〇〇をほうふつ、若サではその上だろう、

〇後列、立ち方、〇松原文吾氏、須賀町前市会議員、現共濟役員。〇高木嘉一郎氏、(同町前市会議員)。〇山野邊庄吉眞立と號し半農半文、平新報の社長兼小使。〇前田廣造氏（舊姓及川、岬の高い處で實兄の富士太郎翁は十幾才）

後列中腰、佐原清彌氏、御代のノリ佛様の近く佐原酒造店の隣りが氏の實家、氏は長男であつた筈であつたが古港に定住、魚市場で活躍して居る、◈八卷儀助氏この会の会長で世話役、製綿の傍ら、魚市場ではなくてならぬ人、寫眞に趣味をもち、かくの通りアマチャでは堂に入つたものである〇小欲ではスミにおけぬ、伊藤義勘さんはおくれて出席、寫眞に、はいらなかつたは殘念、此の会に出席の級友でもちよつて病める、市議比佐政種さんえ見舞をした、余快を禱る。

鈴木ミイさん

（玉川農業協同組合員）磐城市林城弘太郎さん母の氏は永らく病氣中だつたが、去月三十日永眠本月二日葬送された、氏は釜屋鈴木清美氏の義姉である、行年五十二才。

佐藤長松翁

門松で有名な住吉の翁は、九月二十三日永眠された二十五日葬送、行年八十九才

草野隣平氏

（舊姓箱崎）小名濱竹町の氏は水素病院、に入院療養中であつたが二日永眠四日葬送、氏は小名濱小明治四十二年組で大原、箱崎平三郎氏の實弟。行年六十二才

動中靜觀

◈磐城市では漁港の特飲店殘せとこの程國会風紀衛生對策特別委員に陳情書を出したそうだが委員長川崎末五郎氏は元本縣知事でもそう特例は設ける事出來まい明年四月から売春禁止法が施行は、わかり切つて居る筈だ、

◈自民黨縣連会長に山下春江氏、田村町二瀬農業協同組合長に須藤よし(四三)さんが定期改選で互選された。

◈鈴木直人氏(三區代議士)去月二十日永眠され、濱三郡の選擧選も變つてくるか齋藤氏知事に負けて代議士に勝つか。

◈小名濱に日本セメントが工場を設けるそうだ　第二の駒忠事件等起さぬよう市議諸君、大いに誘致運動をたのむ。

◈天高く馬肥ゆるの候はいつの事やら、女心と秋の空……變り易きは人心、眞立も心境の變化でふ、平新報經營には商業化せねばなるまい、但し破邪顯正、勸善慾惡、邪道を排撃する信念は身命を懸けて善處するものである。

◈平の空には皆さんの利益を譲る店として新裝成つた大黒屋でアドバルンが三つ四つ上つて居る。

◈映畫萬能時代（喜びも悲しみも幾歳月）顯屋崎灯台長の妻、田中きよ子さん、手記から出た、地方にゆかりのある、夫婦愛物語りの映畫化『婦人倶樂部』を讀んだらわかるだろうが大人の視覺教育には心温まるものがあろう、又『二宮尊德の少年時代』の如きは子供の世界の視覺教育には結構な事、チャンバラ劇には閉口する。これを直すには劍道を盛んにする事だ、この意味で創價學会等の新興宗教と對抗するには從來の神、佛の復興を盛んにする外術なし矣！

編輯後記（眞立）

一、駒木根忠三氏病氣入院中につき取材、營業方面が思う様に任せず、本號は四頁の企劃でしたが（創刊大正十四年八月二十五日）三十三年目再刊（昭和二十七年拾月十日）滿五年從來の頁やむなきに至りました。

一、眞立が組合長代理をして居る、玉川農業協同組合では最、渡邊兩書記を第一線に立て農事班毎に部落座談会を時節柄晝夜兼行で展開して居ります、この席上種々質問と不平、要望を耳にするが、山丹問題、長〇〇〇への貸し未濟、軍馬の件等はいつれ善處するが、事米供出期と組合長入院中なのでその間の狀情を組合員方々の御理解を得たい、…が要は借りたものを返えす意志がない、こういうときはどうすれば良いか、結論として法的に解決するより外、術なしと信ずるものである、此の際情實と安價な同情は絕排すべしと思考する。